




中ア前衛 雨の穴倉山(1365.1m) (ハイキング / 中央アルプス)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年07月21日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

小雨、霧

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

6:09 登山口 -- 7:18 穴倉山 7:20 -- 7:52 登山口

コース状況/その他周辺情報 :

- ・ 国道153号線から小横川川沿いの車道を走り「穴倉山登山道入口」の案内で右斜め上に入る細い車道を舗装終点まで入ると登山口
- ・ 登山口前に数台程度の駐車場あり
- ・ 登山ポストなし
- ・ 登山道は不明瞭な個所はフィックスロープが整備され、案内標識もある
- ・ 山肌は茸山が続く。9月、10月は登山禁止
- ・ 山頂には石碑群あり。北東方向は伐採され展望あり(ガスで見えなかったが)

📷 写真 :



小横川川沿いの道からこの右に上がる細い道に入る。道の反対側に案内標識あり



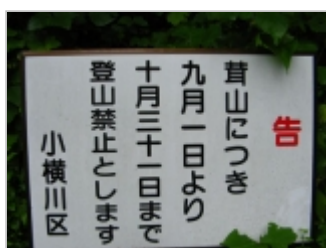
舗装終点が登山口



登山口



登山口の案内



茸シーズンは登山禁止



最初の50mくらいは廃林道歩き



ここで廃林道を離れ左の斜面に取り付く



樹林を登る。フィックスロープあり



いい道が続く



登山道の両側とも茸山



標高880m付近で鳥居登場



鳥居の左側は平坦地があり石碑群と祠がある



なおも登る



標高1245m付近の小さな池



登山道両脇にはこんな石碑があちこちにある



傾斜が無くなる



穴倉山山頂の石碑群



穴倉山からの展望。ガスって視界無し

感想／記録 : (by gekiyabu)

天気予報では雨確実だがもう2週間も週末に出かけておらず、脚力が落ちてくる時期なので無理やり出かけることにした。悩んだ結果、伊那谷北部の穴倉山に向かった。登山道がある山なので雨に濡れた藪に突っ込むことはない。また、この時期のこの標高の山は暑すぎて登る気が起きないが、オホーツク海高気圧が張り出して気温が低下していたので許容範囲だろう。

伊北ICを降りて国道153号線を北上、小横川入口交差点で左折し小横川川沿いの車道を西に走る。城山の南側を通過、小横川集落入口で右斜めに入る細い車道を指して穴倉山登山口の案内があったのでその道に入る。農作業用の道のように非常に狭く軽自動車でもよかった。沢を回り込んだ先で舗装が終了、そこが登山口だった。数台の駐車が可能スペースがあったが、この天気だから他に車は無い。朝飯を食って出発。霧雨でどうにか雨具無しで歩けそうなレベルだがこのまま済まされるとは考えにくい。ゴア、傘を持って登山靴ではなく長靴とした。

最初は僅かな距離だけ廃林道を辿り、すぐに左に曲がって斜面に取り付く。植林帯で藪が無い斜面が広がりどこでも歩けるのでルートが不明瞭だが、フィックスロープが張られて道が分かるようになっていた。暑い雲が垂れこめて日差しが無い樹林の中なのでシャッタースピードが極端に遅かった。道は明瞭で草取り用の道だろうか、細い道の分岐がいくつもあるが明らかに登山道が一番太く迷うようなことはなかった。というか、まっすぐに尾根を登っていけばいいので分かりやすい。

標高約880mで立派な鳥居が登場、その左手には平地があって石碑群があった。そう

いえば登山道の脇には文字が彫られた平たい石があちこちにあった。昔から信仰登山の対象だったようだ。標高1245m付近では道が右に曲がりるところで小さな池があった。

標高1245m地点でやっと傾斜が緩んで山頂が近付いた雰囲気を感じるが、周囲は樹林で展望は無いしガスっている。傾斜が無くなって山頂かと思ったが標識は無いし道はまだ続くので歩き続ける。地形図は持ってこなかったので現在位置不明だがもう山頂は近いはずだ。そして雨に濡れた灌木が張り出した区間を抜けると石碑群が登場し登山道終点。ここが穴倉山山頂だった。北東方向は木が伐採され展望が開けているが今はガスで真っ白。でもそのおかげで真夏の暑さからは解放されている。山頂での気温は約16℃、涼しいと言えば涼しいのだが、登りではかなり汗をかかされた。

下山は往路を忠実に戻る。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>